石川県がん専門薬剤師チーム（石川JOPチーム）

代表：菅　幸生（金沢大学）

１．これまでの取組内容
２．具体的な成果
３．今後も継続して実施する必要性
４．今後の取組と期待される効果

１．これまでの取組内容

目的：石川県における質の高いがん薬物療法の推進

①がん治療における病院薬剤師－薬局薬剤師連携の推進と地域をリードする人材の育成

１）薬薬連携研修会の開催（2-3回/年）

２）病院－薬局共通の副作用マネジメントブックの作成と配布

②病院、薬局薬剤師を対象としたがん薬物療法に関した最新知識の伝達

“医療従事者向け研修会”を開催（1回/年）

③人材育成（がん専門薬剤師・がん指導薬剤師の育成）

１）<u>がん専門薬剤師</u>：資格取得の壁＝**がん患者への介入実績（50症例のサマリ）**

症例サマリの書き方・症例検討会を開催（1回/年）

２）<u>がん指導薬剤師</u>：資格取得の壁＝**原著論文の執筆**

論文執筆に関する研修会（アドバンス研修会）を開催（1回/年、平成30年から）

２．具体的な成果

①がん治療における病院薬剤師－保険薬局薬剤師連携の推進と地域をリードする人材の育成

１）薬薬連携研修会の開催：石川中央、加賀、能登の3地区で実施

＜連携研修会の開催実績＞

令和：R、平成：H

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	合計
回数	7回	7回	8回	5回	5回	6回	5回	5回	4回	52回

２）副作用マネジメントブックの作成と配布：

- ■ がん薬物療法に関する患者への指導内容を病院・薬局間で共有・統一することを目的に作成し、薬局に配布した。
- ■ がん専門薬剤師の臨床経験を加味した実践的な要素を盛り込んでいる。

＜副作用マネジメントブック＞

- 悪心・嘔吐、食欲不振
- 下痢・便秘
- 口内炎・味覚障害
- 白血球減少　など

抗がん剤の代表的な副作用をピックアップ

２．具体的な成果

②病院、薬局薬剤師を対象としたがん薬物療法に関した最新知識の伝達

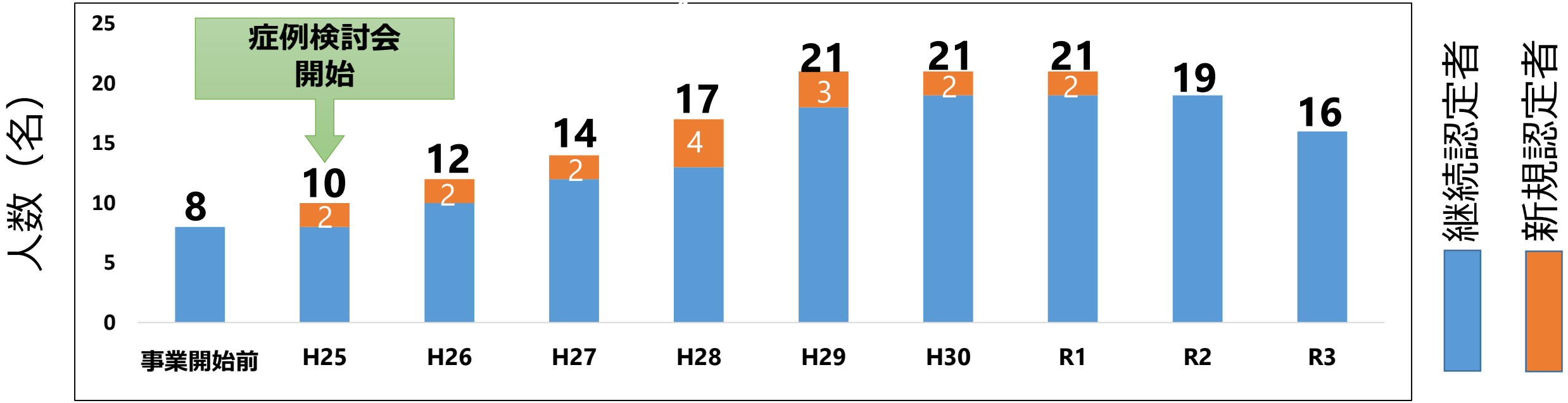
開催年度	参加人数	研修会のテーマ
H25	118名	これからのがん化学療法を考える
H26	96名	これからの緩和医療を考える
H27	138名	がん薬物療法と在宅医療を考えよう
H28	128名	薬剤師の職能を生かしたがん薬物療法と地域連携
H29	85名	地域連携で免疫チェックポイント阻害薬の 副作用から患者を守る
H30	114名	がん治療における 口腔ケア・循環器疾患について考える
R1	113名	薬薬連携で支えるがん治療 ～みんなでPRO-CTCAEを学ぼう～
R2	126名	薬薬連携で繋ごうがん治療の輪 ～感染症への知識を深めて明日に生かす～
R3	188名	外来化学療法患者に関する栄養を考える

２．具体的な成果

③人材育成（がん専門薬剤師・がん指導薬剤師の育成）

１）がん専門薬剤師の育成：事業開始前 **8名から16名**（令和3年）に増加した

＜がん専門薬剤師の年次推移＞



２）がん指導薬剤師の育成：事業開始前**7名から10名**（令和3年）へ増加した

日本病院薬剤師会　第9回江口記念がん優秀活動賞を受賞（令和3年）

３．今後も継続して実施する必要性

現状の課題

◆石川県内の薬薬連携をリードする薬剤師の育成、およびがん治療の知識や技能に関する均てん化はまだ不十分である。

◆病院・薬局間の連携ツールの主体はお薬手帳やトレーシングレポートであるが、現状では十分に活用されていない。

◆がん専門・指導薬剤師ともに増加した。しかし、能登地区に資格認定者がいないなど、地域偏在の問題は未解決である。

石川県における質の高いがん薬物療法を推進するためには、
本事業の継続が必要である

４．今後の取り組みと期待される成果

今後の取り組み

■薬薬連携研修会の継続的な開催、副作用マネジメントブックの配布などにより、がん治療に関する最新情報を伝達する。また、各研修会の企画、運営、交流を通して、石川県のがん医療を牽引する人材を育成する。

■トレーシングレポートに関する研修会を開催し、活用を推進する。

■がん専門・指導薬剤師の育成を継続し、石川県内の全地域にがんの専門資格をもつ薬剤師の配置を目指す。

期待される成果

✓ がん患者への薬剤師によるフォローアップの質が向上する

✓ がん医療における病院-薬局間の連携体制が強化される

✓ 本事業で育成されたがん専門・指導薬剤師により、有効性・安全性の高いがん治療が提供される

✓ 石川県内のがん薬物療法が均てん化される